

令和6年度 学校推薦型選抜Ⅰ 入試採点基準

問1.

採点のポイント：図を正しく読めていること。根拠を示して論理的に説明していること。

1)

解答例

図1において、さんまの漁獲量は、1950年代後半には北海道と宮城県で多く、茨城県、静岡県、長崎県では少なかったため、この時期の主要漁場は北海道と宮城県に近い海域であった。その後、漁獲量は、北海道では2010年まで比較的高い水準で推移したのに対して、宮城県では1960年代に急激に減少して以降は低く推移し、茨城県、静岡県、静岡県では依然として低い水準で推移したため、主要漁場は北海道に近い海域へと変化したといえる。(207字)

2)

解答例

図1において、ぶり類の漁獲量は、1950年代後半には長崎県で多く、静岡県、茨城県、北海道、宮城県では少なかったため、この時期の主要漁場は長崎県に近い海域であった。その後、漁獲量は、静岡県では2010年にかけて低い水準で推移したが、元々漁獲量が多かった長崎県だけでなく、北海道、宮城県、茨城県においても1990年頃から2010年頃にかけて漁獲量が増加したため、主要漁場は長崎県周辺に加えて、茨城県から北海道に至る複数海域に拡大したと推察される。(222字)

問2.

採点のポイント：論理的に説明していること。

解答例

水温が異なるが、他の環境は同等である複数の地点を選び、その場所で養殖実験を行えばよい。また、実験室で水温の異なる水槽を用意し、そこで養殖実験を行うことも良い。そして、水温と養殖生産量の関係について検証し、水温が高いときに養殖生産量が低くなれば海水温上昇の影響があるといえる。(138字)

問3.

採点のポイント：論理的に説明していること。

解答例

大量の燃料が必要になる長距離輸送を減らすため、各海域で漁獲・養殖された水産物をその周辺地域で消費する地産地消を促進することが有効と思われる。また、漁船の燃油消費量を減らすため、海洋環境から漁獲対象種が集まる漁場を予測する技術を開発し、漁船運航を効率化することや、漁港から近い場所で養殖を行って収入を得ることが望まれる。

(160字)